

The World's Greatest Motor Culture Magazine

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-0111 FAX: 03-5561-0112

モーターヘッド

MOTORHEAD

Special Price
1050 JPY

19

第2特集

ULTIMATE
SUPER
CARS

特集: GTR.



高 脱車の脱体を能くならカーボンファイバーこそ。だが、ボディカラー次第ではやり過ぎ感、灰汁掻きさしか生まれないのも事実だ。では、上質感と格上感を積み重ねる。そんなテーマを掲げてモデファイされたのが福岡のカリスマ、ECスベック売のG63である。この一台、じつはアジノ専用色となるグレーがかったブラチナブラックとなり、カーボンが写ることなく絶妙に溶け込む。そんなカラーマジックをこの名店が高等応用しないはずもなく、日本ではあまり見掛ける機会のないマンツリーのカーボンパーツを業者にお任せ込んで、超豪快のSUVへと仕立てた。ボディ、リップ、ボンネット、ルーフ、ホイール、足先をのぞく各部にカーボン

を巻いても不思議なくらいあざとさは出ず、むしろ上品な印象すら湧く。リヤバンパーこそオーナーが好むフェアリーデザイン製のカーボン加工とするも、全体的なまとまり感が高く、トータリティは格段に上がっている。これがメルセデス通常の純正色であるオプシディアンブラックだったら、これほどの気品を浮かべることはかなわなかったであろう。事実、モデファイを実行出した井口氏いわく「単なる白や黒だったら、これほどカーボンを盛り込んだりしません。あざとさばかりが目立つ悪結果を招くでしょう。カーボンは良く巻いてこそ生きるアイテム。今作はブラ

チナブラックだったからこそ、これほどナチュラルな風味を保っています。サジ加減次第では上品にも下品にもなり得る。本来はごくごく一部に押し込む程度がいいでしょう」マンツリーで委でるプレミアム感、選材適所に配置されたカーボンがもたらす上質感、羅み上げられたのは磨るぞのない荘厳。写えた手腕が光る極めて規矩なアプローチだ。一流を知る者は一流。福岡のメルセデスマイスターは、スリーポイントドスターを巧みに彩るアーティストであった。♪

マンツリー製品を効果的に用いて、シンプルリックに脱体を能く、ボディカラーを味方につけたカーボンインストールなので積み重ね、洗練感だけが浮かび上がるように、リヤバンパーのみはオーナーの意向を受けて、フェアリーデザイン製で、いたずらにブランドネームに併合せず、自然のアレンジを楽しむのが大人の楽しみ。



一流のG

EC.SPEC
G-Class

Text: 塚口 剛 Shoton! workshop
Photo: 小林邦寿 Kenjiro Kobayashi

マンツリー・カーボンボンネット/
カーボンルーフ/フロントリップスロイター/
グリア/ホイール(10J+2J)
オンドル車体塗装/ボディペイント
フェアリーデザイン・リヤバンパー・G 世

ec.pec / EC.SPEC ☎092-406-1414 www.ec-spec.jp
ec.pec / ec.pec ☎092-627-3400 www.kitchenhouse.jp



EC.SPEC LS

独 創のカスタマイズ文化が華開く福岡の地で一人気を吐く老舗輸入車専門店、それがECスペース。メルセデスをはじめとするビッグセダンのコーディネートと大得意としており、長らく熟成されてきた車族の理論に魅了されるフリークは数多い。そんな名門が手掛けた入魂作がこの華麗なるレクサスLS。

同席を切り盛りする井口拓也氏いわく「ビッグセダンは車種に応じたホイール選びにてメリハリをつけるのが理想。たとえばメルセデスでシンプルはもはやありがちに過ぎ、たとえばレクサスでゴージャスはいまやヤンチャに映る。あえてその逆手を取って周到かつ繊細に突き進む、

それがビッグセダンをメイク成功への近道だと考えています」。福岡のカリスマが推型するのはカスタマイズ巧者にジャストなツビースペックの、アジオ・プレジューネ・シリーズのインストール。レクサスへのマッチングがまだ少ない今だからこそ、このとっておきの飛び道具を最大の武器に据えて、あえてエクステリアはストックのまま留め置いてシンプルリッチに四肢を磨き込むのが過なるやり口なのだ。が、マッチングの意外性だけで勝負するのはいかにも半可通。井口氏はストリートな高級感をことごとくアピールするために、ワンピース製のプレシジョンネキTR(9.5×22インチ)

を特別オーダーにてフルブラッシュド仕上げとした。インナーリムまで抜かりなく加工してもらった結果、これほどの輝きを放つ足元を醸成することに成功しているのである。

これぞ井口流創製工場の妙味。これぞ新時代の豪華一点主義。名門が掲げるブランディングコード、レクサス×アジオ・プレジューネの真敵な差別が、福岡の街を華麗に彩る。そして坂前線ともにもまもなく日本各地へと東上していくのだろう。このブランディングコード、ひょっとしてビッグセダンをメイクのあり方を大きく変える契機とすらなり得るかも知れない。

Text : 井口 拓 Satsuki Hiraguchi Photo : 小林利寿 Katsuya Kobayashi



アジオ・プレジューネキTR(9.5×22)でシンプルリッチを模したインナーリムまで加工された特注フルブラッシュドが価格すら振りし出し新時代の豪華一点主義メイクである。

ヤンチャなハイエンド。